

【H29:情-1】公共下水道事業等のコンセッション等導入詳細検討調査 (実施主体:宮城県村田町)

村田町基礎情報(H30.1.1時点)
 ・人口:11,262人
 ・可住地面積:44.3km²

【事業分野:下水道】 【対象施設:上水道、工業用水道、下水道、農業集落排水の全部】 【事業手法:コンセッション方式等】

調査のポイント

- ・小規模な地方公共団体におけるコンセッション方式の導入可能性調査。
- ・対象施設は、**管路施設が主体**。(下水道分野におけるPFI事業では処理場が主体の場合が多く、管路施設を主体とした事業に対する先進事例が見られない)
- ・**ストックマネジメント計画等が未策定**の状況において、**デューデリジェンスが可能**となるような、抽出調査。

村田町の概要

- ・村田町は、宮城県の南部に位置し、仙台市など3市4町に隣接
- ・山間部に位置する小規模な自治体
- ・将来的に人口減少が課題

調査対象地及び施設の概要(平成27年度末)

対象施設

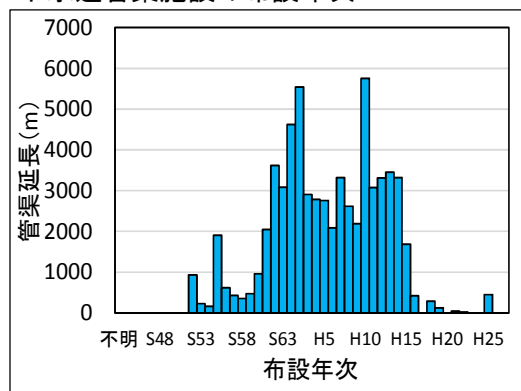
事業名	施設規模	備考
公共下水道事業	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画面積 554.5ha ・事業計画区域面積494.4ha ・整備済面積367.7ha(整備率74%) 	<ul style="list-style-type: none"> ・汚水は県南浄化センター(阿武隈川下流域下水道)で処理 ・管渠の布設は昭和61年~平成15年度(約20年間)に集中して行われた ・施設更新が平成48年(2036年)以降に集中する見込み(耐用年数50年として) ・地方公営企業法非適
供用開始平成元年7月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・現在水洗化人口:6,285人 ・現在晴天時汚水量:2,412 m³/日 ・汚水管延長:65.57km ・雨水管延長:2km ・マンホールポンプ:20基 	

資産情報等の整理状況

項目	整理状況
台帳整備	既に電子化されている
資産台帳	今回作成
公営企業会計	非適
劣化状況の把握(管きよ)	震災後一部調査実施。 今回調査対象
劣化状況の把握(機械電気設備)	定期点検実施。 SM計画あり。 今回整理
改築更新等の計画	なし

※村田町内の上下水道分野4事業(上水道事業・工業用水道事業・公共下水道事業・農業集落排水事業)を同時に調査

下水道管渠施設の布設年次



※上水道事業は、法定耐用年数を超過した施設が約2割を占め、大規模改修が平成38年度から必要と予測される。

事業発案に至った経緯・目的

平成27年度 大規模事業場の撤退

- ・水道料金および下水道使用料の減少が問題。
- ・経営戦略の策定等の検討過程において、今後の持続的なサービスの提供が困難となることが予想された(ヒト・モノ・カネの絶対的な不足)。



平成28年度 公共四事業コンセッション方式等導入可能性調査

- ・今後の事業運営において、民間活力の活用が必要不可欠であると考え、コンセッション方式の導入可能性を検討した。
- ・民間事業者に対するヒアリングの中でデューデリジェンスの重要性を認識した。
- ・現状施設の状況や、劣化リスクに関する情報が不足していると判明した。



平成29年度 先導的官民連携

- ・今回の調査において、資産評価およびリスクに関する調査および情報整理を行い、民間事業者が事業への参画を検討する際の基礎資料を作成する。
⇒インフォメーションパッケージ

